

＜インフルエンザ抗体価測定の結果＞

☆ 毎年インフルエンザワクチン接種をしている場合は、1回接種でも有効か？

昨年ワクチン接種をしている人のインフルエンザ抗体価（HI）測定をおこない評価しました。

それぞれの型につき、HI抗体価40倍以上であれば、かかりにくく、かかっても軽くてすむといわれています。

表1・今年のワクチン接種前のHI抗体価（40倍以上）・

		Aソ連型	A香港型	B型
3歳未満	38名	5%	16%	0%
3歳～9歳未満	80名	45%	53%	4%
9歳～13歳未満	52名	60%	67%	15%
13歳～18歳	17名	76%	88%	29%

表1のように、昨年接種していても、

- 3歳未満はすべての型に抗体保有率が低いです。
- 3歳以上では、Aソ連型、A香港型ともに、抗体保有率が高いですが、B型は低いことが判ります。ワクチン接種前採血だけで判断するとほとんどの人が、B型にはかかりやすい状態だと言えます。

ワクチン接種後3週間すると抗体価は上がってきます。ワクチンの有効性を判断するには接種後の抗体上昇が重要です。11/15までに表1の人の中で1回接種後の確認採血ができた人の結果を表2に示します。

表2・ワクチン1回接種後3週間経過時のHI抗体価（40倍以上）

		Aソ連型	A香港型	B型
3歳未満	12名	67%	67%	0%
3歳～9歳未満	29名	90%	83%	24%
9歳～13歳未満	26名	77%	88%	42%
13歳～18歳	10名	100%	100%	40%

- ワクチンの有効性を判断する欧州医薬品審査庁（EMA）の評価基準では、抗体陽転率、幾何平均抗体価変化率、抗体保有率の基準のうち1つ以上を満たせばそのワクチンは有効と考えます。表2の結果は抗体保有率を示しています。
- Aソ連型とA香港型は、3歳以上で抗体保有率（>70%）の基準を満たし、1回接種のみで有効です。3歳未満も抗体陽転率（>40%）は基準を満たし有効となります。
- B型は、抗体保有率だけ見ると低ですが、幾何平均抗体価変化率をみると9歳以上は1回接種で、ほぼ有効であり、13歳以上のデータと同等です。3歳～8歳に関しては、B型の抗体保有率の低さから2回接種の方が安全だろうと思われます。3歳未満は2回接種が必要です。

今回は 途中経過の報告です。

インフルエンザワクチンは、毎年接種することで効果を維持します。

毎年接種している人は・・・
 3歳未満：2回
 3歳～9歳未満：2回
 9歳以上：1回

をお奨めします

